



新春の候、希望にあふれる新年をお迎えのこと
と存じます。

今年三月をもちまして三悦は百周年を迎えること
になりました。これもひとえにお客様や取引先様各社の
おかげであります。

今後もお客様には安心感を取引先様へは信頼感を
社員ともども提供してまいりますので今後とも
よろしくお願い申し上げます。

さて、今回の題材は会社や家庭において役に立つと
思います。

「傾聴」

今度娘さんが結婚することになったお父さんが悩んで
いました。

実はお父さんは娘さんと仲が悪くて、ほとんど口を聞か
ない状況でした。何とか結婚式の前に仲直りしたいと思って
心理カウンセラーに相談しました。カウンセラーが仲の
悪くなった理由を聞くと、

「娘が小学校四年生の頃、会社が倒産しそうで、毎日悩ん
でいました。ある日、お金の借入れで悩みながら家に帰っ
たときに、娘が『パパ、話を聞いて！』とかけよってきたので、
思わず『それどころじゃない！』と言って突き飛ばしてしま
いました。娘は泣きながら自分の部屋に行ってしまいました
。それ以来、うまくいかなかった気がします」
と寂しそうに答えました。カウンセラーは、
「そんなに気にしているのですしたら、結婚式までに思っている
ことを伝えてください」
とアドバイスしました。

お父さんはアドバイスにしたがって、なんとか娘と話をす
る時間を取ろうと努力しますが、娘さんは結婚式の準備
で忙しくて相手にもしてくれません。
とうとう結婚式の前夜、娘さんが、

「お父さん、お母さん、お世話になりました……」
とあいさつに来るまで話ができませんでした。娘さんが
帰ろうとしたとき、お父さんは、
「あの時、お前が何を言いたかったか、今でも気になっている
んだ。悪かったな……」

とやっ和小学生の時の話を伝えて謝ることができました。
娘さんは、
「全然、覚えていない。ただ、何となくお父さんと話せなく
なつて……。でも、今の言葉で私がお父さんに本当に愛され
ているのがわかった。誰の言葉よりもうれしい。ありがとう」
と目に涙を浮かべて話しました。

この話を聞いて、仕事が忙しくても子どもの話をなんとか
取ろうと思うようになりました。でも「忙しいから五分だ
けだよ」と言っても、子どものおしゃべりは止まりませ
んが……。



自分の話を聞いてもらいたいと思つたら、まず相手の話を
真剣に聞くことが大切だと思います。相手の話す言葉ではな
くて、相手の使いたい気持ちを考えながら聞くことがポイント
です。

「最近、何だか疲れていて……」

と話す人は、

「それならば、マッサージに行けばいいよ」

という答えよりも、本当は、

「どうしたの？力になれることがあったら協力するよ」

という答えを欲しがっているのかもしれない。

相手に自分の気持ちがわかってもらったと感ずることができれ
ば、相手も必ず自分の気持ちをわかろうとしてくれます。

相手を理解することで、初めて相手に理解してもらうことが
できます。

小さな幸せに気づく24の物語より抜粋

株式会社 三悦

代表取締役 樋田 浩三

平成二十九年一月